



死亡災害 2020



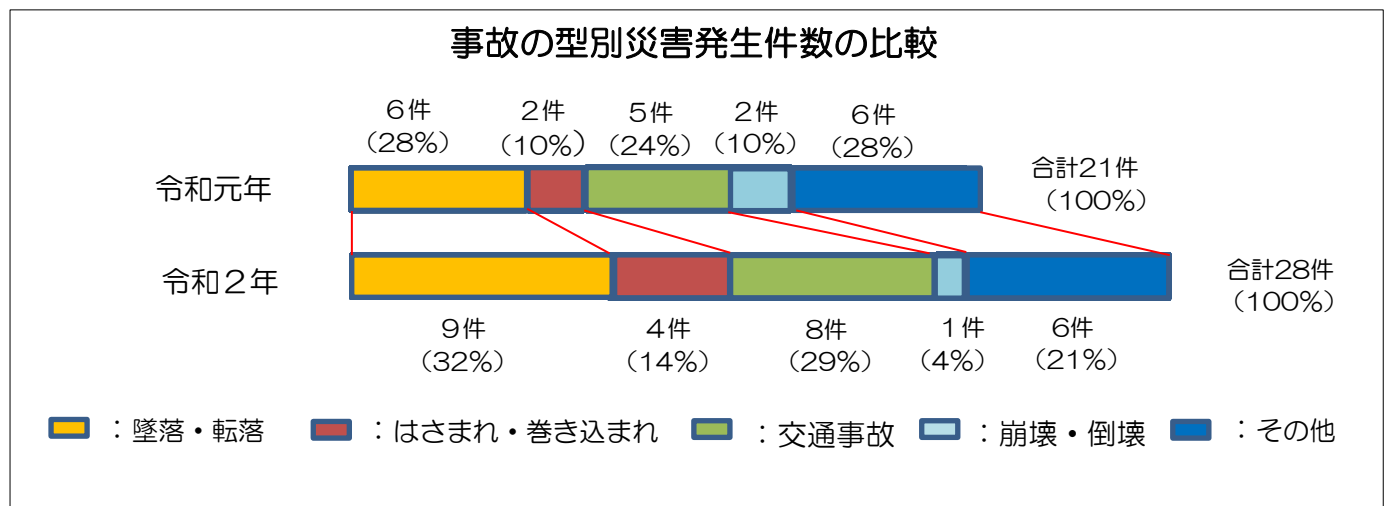
はさまれ・巻き込まれ災害の防止に取り組みましょう!!

令和2年7月末日の大阪府下の全産業の死亡災害の発生件数は28件であり、前年同期の21件を上回っている状態となっています。

事故の型別による災害発生件数は、墜落・転落は9件（前年同期6件）、はさまれ・巻き込まれは4件（前年同期2件）、交通事故は8件（前年同5件）となり、これらの型の合計は全発生件数の70%を超えており、これらの3型は全て前年同期より大幅に増加しています。

とりわけ、はさまれ・巻き込まれ災害の発生件数は、前年同期の2倍発生しており、災害防止対策に取り組む必要があります。

これらの災害を防止するため、リスク”ゼロ”大阪推進運動を積極的に取り組み、労使一体となって、はさまれ・巻き込まれ災害を防止しましょう。



はさまれ・巻き込まれ死亡災害事例（令和2年1月～7月）

| 業種 | 年齢 | 職種 | 経験 | 起因物 | 発生状況 |
|------------|-----|-----|-----|------------|---|
| 警備業 | 60代 | 警備員 | 7年 | その他の建設機械等 | 市道の舗装作業の警備中に後退してきた路面切削機と接触し、路面切削機の後輪に轢かれた。 |
| 道路建設工事業 | 40代 | 管理者 | 15年 | 締固め用機械 | 道路舗装工事において、道路の矢印標識を行う位置にしゃがんでチョークでマーキングをしていたところ、アスファルトの締固めのため後進してきたタイヤローラに轢かれた。 |
| クリーニング業 | 50代 | 管理者 | 3年 | その他の一般動力機械 | 洗濯したタオルを乾燥後にほぐす機械(シェーカー)に目詰まりが発生した為、解消作業に行ったが、戻ってこないのを見に行ったところ、シェーカー内で倒れていた。 |
| 金属プレス製品製造業 | 30代 | 検査工 | 7年 | プレス機械 | 1,500トンプレス機械にて、労働者2名で鋼板の歪をとる作業を行っていたところ、労働者1名が鋼板を跨いだ状態時にプレスが降下した。 |



厚生労働省 大阪労働局・各労働基準監督署

<https://jsite.mhlw.go.jp/osaka-roudoukyoku/>

「はさまれ・巻き込まれ災害」防止のため、リスク“ゼロ”“大阪推進運動の「安全見える化活動」、「安全 Study 活動」、「リスク評価推進活動」を実行しましょう！

◆ 安全見える化活動 ◆

- 「年間安全衛生計画」を作成し、実行することにより「安全衛生活動」を見える化する。
- 事業場・現場・店舗等の総点検を実施し、「危険場所」、「危険箇所」及び「危険作業」を見える化する。
- 墜落・転落、転倒、はさまれ・巻き込まれ、切れ・こすれ等の危険場所等を「危険マップ」により見える化する。
- 交通事故の危険を感じた事例（ヒヤリ・ハット事例）の収集と交通KYTや交通安全情報マップの活用などで「交通労働災害防止活動」を見える化する。
- 危険有害物質等の有無（作業環境）、ばく露防止方法等（作業管理）を見える化する。
- ストレスチェック制度をはじめとするメンタルヘルス対策、過重労働による健康障害防止対策等の健康管理活動を見える化する。
- 各企業・事業場・現場・店舗等におけるトップ自らが安全衛生に対する取組を宣言し、すべての労働者と安全衛生意識を共有する。
 - ・建設業における「現場所長安全宣言」を現場の見やすい場所に掲示
 - ・製造業における「工場長安全宣言」を事業場の見やすい場所に掲示
 - ・小売業や飲食店の各店舗における「店長安全宣言」をバックヤードの見やすい場所に掲示

◆ 安全 Study 活動 ◆

- 作業員への安全衛生教育の促進はもとより、各級管理者等に対する安全衛生教育についても計画的に行う。
- 危険体感教育の実施により、作業員の危険感受性を高める。
- eラーニング教材を活用した教育にも取り組む。
- 建設業における送り出し教育を確実に実施する。
- 非正規労働者に対し作業内容を理解させ、安全作業のための雇入れ時の安全衛生教育を確実に実施する。
- 高年齢労働者、外国人労働者等においては、身体機能の低下や作業に不慣れなことなどによる災害の発生が懸念されることから、雇入れ時教育や危険体感教育等について、それぞれの特性に応じた教育を行う。
- 入職一年未満の経験の浅い者に対する安全作業スキルアップ教育を実施する。
- 労働者自らも進んで安全衛生教育を受講し、危険感受性を高め、健康の保持増進に努める。

◆ リスク評価推進活動 ◆

- 労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針に基づく「年間安全衛生計画」に、リスクアセスメントの実施及び結果に基づく措置を盛り込む。
- 作業毎にリスクアセスメントを確実に実施し、これに基づく低減措置の実施及び残存リスクの見える化を図る。
- リスクアセスメント作業手順書を作成し、これに基づき安全な作業を徹底する。

リスク“ゼロ”大阪推進運動

趣旨

リスク“ゼロ”大阪推進運動は、「災害ゼロ・疾病ゼロの大阪」を実現することを究極の目標として、労働災害の防止、重篤災害の撲滅に向け、働く者すべてがそれぞれの立場で自主的に安全衛生活動を実践し、職場風土と安全文化を構築していくための啓発運動である。

この運動は、平成30年度を初年度とする「大阪労働局第13次労働災害防止推進計画」の目標を達成するため、工場、現場、事務所、店舗などの職場に潜むリスクの洗い出しを行い、これに基づき設備の改善、作業手順の見直し、安全衛生教育の実施などの対策の徹底により、災害のリスクをなくし、「正規」「非正規」等の区別無く、全ての労働者の健康が確保され、安全・安心に働くことができる職場の実現に取り組むものである。

この運動は、大阪労働局、管内各労働基準監督署、各労働災害防止団体、労使等の関係者が連携し、積極的に展開するものである。